

年で底をつくことが示された。基金が無くなれば、町の一般会計から補填することも検討する必要があるとの見解であった。

## 施設整備基金

	基金残高(円)
合併時	8,998,317,027
H25	6,209,253,000
H26	6,014,253,000
H27	5,714,253,000
H28	5,314,253,000
H29	4,714,253,000

### 議員からの意見

○町民は現在の病院事業の経営状態を知る権利があり、周知した上での幅広い議論が必要である。

○病院事業局は民間医療施設との連携を強めるべきである。

○医療の充実と維持は重要である。老健は満床でも赤字になるという構造を改めるべきであり、事業局は住民がどのような施設を求めているのかと

いう意見を集約した上で案を示し、住民に情報を開示するべきである。

○町内のどこでも同じ医療が受けられるというのが理念であり、大きな行政課題になってくる。具体的なスケジュールを示すことが大切である。

### 椎木町長のコメント

本町の医療事業は人口が昭和40年、4万3千人の頃に体制が確定し、病院事業の赤字により他の事業を運営する予定であった。

現在、町民が町外の病院に通院しやすい環境にあり、町立病院には長期入院の患者が多くなっている。

病院は法定的に職員配置が行なわれる等、経営そのものが厳しくなる。老健に関しては制度的、構造的な問題を抱えており、管理運営体制の変更などの可能性もあり得るだろう。

町立病院という成り立ちから、も人道的・福祉的な役割があり、

町民がどのくらい必要性を感じているかを知ること大切である。

基金が枯渇し、一般会計からの補助金を出すことで解決する問題ではないし、これは病院事業局だけの問題ではなく町全体の大きな課題である。

### 全員協議会を終えて

周防大島町の病院事業は合併前から現在まで様々な経緯を経て、地域医療の充実を目指し運営されてきました。



大島病院



橋病院

そして、全員協議会で現在の状況と将来の予測をふまえ、今後、町民の信頼を得る組織にするための課題について協議しました。

議会では、病院事業に対する現状認識を一層深め、改善策について検証し議論を重ねて行くことが重要であるという共通認識を新たにしました。

この度は、町全体の問題ということもあり全員協議会の報告を『議会だより』に掲載しました。